

2026

4/17

金

第1部 演題

食道がん治療への挑戦

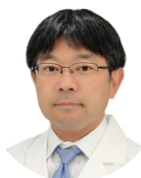
第2部 演題

あきらめない膵がん治療

— 膵がんに対する私たちの取り組み —

第1部 講師

消化器外科・小児外科
准教授 小熊潤也 医師



近頃、昭和・平成を彩った名優たちの訃報を耳にする機会が増えてきました。その中でも食道がんを患った方が多いと感じるのは私だけでしょうか?一方で、同じ食道がんを患いながらも無事にこれを克服し、再び第一線で活躍されている方々もおります。食道がんの特徴として、酒・タバコが発症のリスク、60歳以上の高齢男性に多い、早期発見が難しい、進行がんは予後が悪い、などが挙げられます。私のような凡人の想像を絶するプレッシャーやストレスのはげ口として、酒・タバコを好む人も多く、著名人に食道がんが多いのはある意味仕方ないことかもしれません。本講座では、食道がんという病気の特徴と、現在われわれが挑戦している食道がんに対する最新の治療法、さらには今後の展望について詳しく解説させていただきます。

第2部 講師

消化器外科・小児外科
講師 刑部弘哲 医師



膵がんは日本でも増加しており、依然として予後不良ながんの一つです。近年、診断技術の進歩により早期に発見される例もみられますが、初期には症状が出にくく、進行した状態で見つかることも少なくありません。そのため、迅速な診断と適切な治療が重要です。当院では内科・外科が連携し、患者さん一人ひとりに応じた治療に努めています。膵がん治療は日々進歩し、治療内容も多様化しています。今回の市民公開講座では、診断、薬物療法、放射線治療、ロボット・腹腔鏡手術などの低侵襲手術、さらに局所進行膵がんに対するコンバージョン手術や集学的治療について、わかりやすく解説します。

日時 2026年4月17日(金) 開場 16:30 開演 17:00 ~ 閉演 18:30(予定)

会場 東京医科大学病院 本館9階 臨床講堂 (最寄駅:丸ノ内線 西新宿駅)

申込 事前の申込は不要。当日は会場に直接お越しください。

※尚、座席数に限りがございます(360席)。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。